

# 幼児教育の特色

(京阪神聯合保育會に於ける講演概要)

倉橋惣三

元來我國は、教育の方面に於いては、何う云ふわけか、外國の思潮に動かされることが急で、教育上の思潮が始終いろ／＼に動搖して居るやうであるが、其の間に在つて、幼児保育の方面だけは可なり長い間、議論もなければ變化もないといふ風に、謂はゞ呑氣な長夜の眠をして居たのでありました。それが近來になつて急に忙しく目を醒して來たのである。其の爲に急にいろ／＼の論や説が出た。之れは實に結構な大に喜ぶべきことであつて、茲に初めて進歩があるのである。或は新しい説に動かされては可ん、いろ／＼な考に動搖しては可ないと云ふことは、老成大家の御説であるけれども、併し何か深く徹底した結論に達しやう

とするには、當分の間は多少の動搖は免れないことである。一方の思ふ所に突進して見る、すると今度は又それとまるで矛盾して居るやうな、反對の方面に曲折して行くと云ふやうなことは、研究の途中としては當然起ることである。小さく纏りのついた、いゝ加減な結論に基いた保育には、吾吾は永い間飽き／＼して居つたのである。近來の如く活潑な研究が、續々出ると云ふことは、やがて是が本當の大なる結論に落付く所の途筋であらうと、私は確信し且つ期待して居るのである。何うか三市保育會、或は全國の保育會の方々が、まだ十年や二十年、結論に達しないでも少しも構はないのでありますからして、存分いろ／＼な方面

に意見を選ばれ、又主張の旗印もいろいろに立てられて、御遠慮なしに互に研究せらるゝことを希望するのである。

併しながら是は研究である。吾々がいろいろ新しい教育主義に接して、新しい學説を受取つて。それに向つて殆ど極端なる程の意見を構成して見る。而して何處まで此意見が徹底するのであるか深く穿鑿して見ると云ふのが、是れ即ち研究の態度である。研究の態度は何處までも最も自由なるべきである。併し其の自由なる研究の中にも、其の問題の特色として一定の大方針はあるものだろうと思ふ。勿論此の大方針も、もとは研究の結果に基づくもので、どこからも獨斷的に與へられるものではないが、何か大體の方針となる處のものがなくては、個々の研究が極めて亂雜に不統一になつて仕舞つて、遂に其の末の爲に、其の大本を忘れるといふ様な弊が起りはしないかと思はれる。即ち幼稚園教育にはいろいろの主義もあり、方法

もあるけれども、それが幼稚園教育である限りは脱越することの出来ない一定の範圍がある筈だと思ふのである。私は今日、そのことに就て申上げて見たいと思ふのである。但し、斯ういふことは餘り細かになると、却つて大方針としての自由なり餘地なりを失ふ様になるから、成るべく大體に止まつて、しかも基本となるものでなければならぬと思ふ。又、私の今日申し上げることは、何も保育の流義を一定にきめて仕舞ふといふものではない。寧ろ、あらゆる保育の方法を包含し居る筈のものである。たゞ保育が保育である以上、斯ういふ方針のもとに考究せらるべきものだといふことをあらはすものである。

私は他の教育に比較して、幼稚園教育の特に特色とする處が四つあると考へて居る。其第一は幼稚園の教育は——外の教育に於ても、別に變つたことはないかも知れないが——特に幼児、即ち被教育者の自發的生活を尊重しなければならぬとい

ふことである。此事たる決して新しい問題ではない。既に幼稚園を初めたフレーベルが此點に注目したのである。のみならず、其れ以來幼児教育に就いて、いろいろ講究されて居るが、如何なる學說、如何なる新主義、如何なる新しい試みが行はれても、幼児の自發的生活を度外に置いて保育の方針を立てると云ふことは、昔も今日も無いのであつて、別に改めて申上げる程のことはいかにも知れないが、幼児教育に幼児の自發的生活を尊重すると云ふ意味は、私の考へでは、二つの方面がある様に考へるのである。其の一つは保育の方法の形式の方面であつて、保育を有效に行ふためには自發的狀態を利用した方がよいといふのである。無理に注入するのでなく、成るべく幼児を自發狀態に置いて、それに向つて吾々の與へんとする所を巧く仕向けて行くと云ふのである。第二の考へは自發的生活を教育の手段の上に用ゆるのみでなく、幼児の自發的生活其物が内容的に、非常に大切な

ものであると云ふのである。此二の點は極めて微細なやうであるけれど、充分明かにして置く必要のある大切な點ではないかと思ふ。今日いろいろの研究の教へる所に依れば、幼児の自發的生活の中に、吾々が之を適當に培養することに依つて、いろいろ立派なものに育て上げ得る所の、豊かな内容を有して居ると云ふことが益々明かになるのである。即ち幼児の自發的生活の中には、形が自發的であると云ふ以外に、充實した内容を有して居ることを知るのである。此點を吾々が利用してゆくと云ふと、自發に任せていろいろ豊かな教育をして行くことが出来るのである。之れは方法的の問題よりもモウ少し中身のある、深い意味のものであると思ふ。先年來此の自發とか自由とか云ふことが、大變に吾々を刺激して、束縛的、或は干渉的な保育方法に對して、成るべく自然なる自發に従ふ教育をしなければならんと云ふことが一の傾向として行はれるやうになつたが、それが

前に述べた方法の形式の上の意味のみに限られて  
幼児の自發生活に含るゝ、内容方面について餘り  
考へられて居ない觀のあるのは、未だ不満足に思  
はざるを得ないのである。即ち大切なる其の自發  
的生活の内容に對しては、吾々の注意が未だ充分  
でないと言ふ感じを持つのである。若し果して然  
らば幼児の自發的生活と言ふことを唯だ非干涉、  
放任と言ふやうな方法上のこと、従つて消極的意  
味に解釋して、満足するだけでは足りないのでは  
ある。従つて唯だ干涉せずに幼児を放任して置く  
と云ふ風なことは、決して幼児の自發性を尊重す  
ると云ふ教育の眞骨髓に達して居るものではないの  
であつて、自發的生活の内容を尊重して、それを  
利用して積極的に、幼児を教育して行くと言ふこ  
とも、自發的といふことの重要な一面であり、  
吾々に取つて餘程重大なる仕事であることを感じ  
なければならぬのである。

次にこの問題を方法的な方面へ移してくると云

ふと、幼児の自發的生活の内容を尊重し、之れを充  
分發揮せしむる爲には、幼児をして充分相互的生  
活をさせるのが、最も適當であるといふことにな  
つて来る。元來相互的といふことは幼児教育の一  
手段として、最も適當の途ではないかと思ふ。外  
の教育では大人の方から教へなければならんこと  
が澤山あるが、幼児教育に於ては相互的生活をし  
て、それに依つて互に持つて居る所の、自發性の  
内容に自由なる發揮の機會を與へ、之を鍛鍊し發  
達せしめて行くと言ふことは、最も適當ではない  
かと思ふのである、是は普通の教育では大分困難  
なことであつて、少くも之を教育と云ふ仕事の全  
部と考へてやると云ふことは實に六かしいことで  
ある。或は皆を集めて一齊に教へなければならん  
こともあり、或は一人一人緩り話をした方が可い  
こともある。斯う云ふことは殊に教授をする側の  
教育になると、免れないことであつて、相互的の  
教育を以て、教育の全部とすることは逆も出來な

いのである。併しながら、幼児教育に於ては、今申上げましたやうに特別に是れだけのことを興へなければならんと云ふ、教材の様なものはなく、唯だ幼児が現してくる所の自發的生活の内容を、一つでもよいから徒らに看過さないやうにするのが、幼児保育上の仕事であるとしたならば、幼児をして相互的の生活をせしめて、互に持つて居る所の自發的内容を鍛鍊し、活動せしめて行くと云ふやうな機會を充分に與へることが出來ると思ふ。但し幼稚園の教育は本來個人的なものだと云ふ論がある。幼稚園の教育で、大勢の幼児を寄せ集めて、社會的團體訓練をする様のこととは早過ぎる。幼稚園の教育は要するに個人的のものであつて、幼児一人々々の自由な個性を尊重するに在ると云ふ論がある。併し之れと相互主義教育法とは決して反對も矛盾もしないのである。幼稚園は個人的教育をするものであると云ふことは、如何なる何う云ふことかと言ふと、即ち一人々々の個性を没却せ

ず、殊に一個の標準を以て劃一して仕舞ふ様のとをしないといふことである。即ち個人々々の個性を發揮せしむると云ふことに心を用ひなければならん。假令は一の仕事をして居る時に、一人が手を舉げれば皆が手を舉げる、號令を掛ければ皆が揃ふと云ふやうに、無暗に規律的教育をすることはいらんといふのである。處で斯ふいふ風に其個人々々の持つて居ります所の個性を、充分に自由に發揮せしめる爲には、教師中心よりは相互中心が適當だといふことは、明かなことである。個人的特性の發揮は、外の言葉に依つて言へば、先程の自發的生活と云ふものに歸著してくる。自發的生活を真に自發ならしむるには、教師が一人々々子供を引張つて行くと云ふことのみでは出來ない。どうしても同じ様なお互同志の生活の間に、自然に出來てゆくのである。此事は今日の家庭に於ても、充分に徹底して居ない。幼稚園へお願すると云ふことは、矢張先生にかゝりつきりで、面倒を見て頂

き度いと云ふ様な考へで居る。幼稚園へ行つて見た所が、先生が他所の子供は放つて置いて、家の子供だけ手を引いて遊んで居て下さつた、家の子供は實に仕合である。保育料を三人前位出してよいかから何うか始終斯ういふ様にして頂き度い。といふ様な考への人が多い。幼稚園の先生達には然う云ふ馬鹿々々しい考を持つて居る方はないが、如何にして幼児の相互生活を充分發揮させようかといふことに就ては、まだ研究が充分でない様に思はれることもある。

次に第三の特色は、幼児の生活を成るべく渾然として分割しないものにならなければならんと云ふことである。幼児に限らず凡そ人間の生活と云ふものは、いろいろな複雑な精神要素が適度に結合しまして、それが複雑なる形を以て、而かも其間に統一のある形を以て現れて來るものである。それを吾々が特別な方面に、或る一つの點だけ教育をすると云ふ様のことをするならば、折角統一の

ある。折角渾然と纏まつて居りまする處の心の生活を毀してしまふことになる。殊に多方面にして而かも統一あり、複雑にして而かも單一である所の、兒童の生活に對しては一層左様である。處が教育に熱心し力を盡すといふ場合には、どうも心の一方の點を特に注意して、その點にのみ偏つた發達をさせるといふことが尠くない。之れも程度の高い教育に於いては已むを得ない。殊に専門教育に於いては、或る方面に特別な力を用ふると云ふことは當然であるが、併し幼稚園の子供に對しましては、然う云ふ分割的教育をせねばならんと云ふことはいないのである。加之幼稚園の子供の、自發的生活の内容と云ふものは、決して今日は此方の方面、今日は彼方の方面と區分的に現れて來るものでなく、渾一した状態を以て現れて來るものであつて、複雑にして而かも統一ある形を以て現れて來る處に妙があるのである。心理學的に人間の生活を見て、感覺とか感情とか、意思とか云

ふのは研究上の抽象的分解であつて、之れをすぐに實際の教育に當嵌めて、そいふ分割的方法に於て兒童を教育して行かうと云ふのは、非常な間違であると思ふ。私は之を幼兒教育の具體性と申して居る。

次に第四の特色は、幼兒教育は概念的、觀念的でなく寧ろ情緒主義であるといふところである。元來吾々の心は情緒的方面から發達して、それが觀念として出來上つて來るのである。心の發達の初期にある幼兒の生活も亦、情緒的方面が主になつて居るのである。或は物の興味に就いても日常の生活に於いても、吾々は常に概念的な生活が加味して居るが、幼兒に於いてはどこ迄も、情緒的の生活が主になつて居ります。すなはち、その情緒を中心としてゆく教育が行はれなければならぬのである。

さて斯う云ふ風に自發的とか、相互的とか、具體的とか、情緒的とかいふ特色は、必ずしも幼稚園教育に限つた特色ではない。殊に現代教育の傾

向は餘程斯う云ふ風の傾向に向つて居るやうに見える。近頃いろ／＼な言葉を用ひて居る處の、兒童中心主義の教育、即ち子供を中心として行ふ教育は、言葉を換へていへば、形式及内容上に於ける自發的教育と云ふことになる。現に此頃いろ／＼な方面に行はれて居る所の、自發性の訓練即ち學校に於いても成るべく自治的觀念を興へなければいけないとか、社會的の少年團や、或は少年軍などいふ風に、自治的生活を授けなければならぬと云ふ主張が、近世的教育の色々な方面に行はれつつある。是はつまり一方では、相互的生活を尊重すると云ふことになる。或は又、多くの現代教育家が、吾々の實際生活から離れてしまつた教育は何もならん、唯だ抽象的智識の教育で、實際の生活とは何等の關係の無いやうな教育は何もならん、實際の生活と密接した教育でなければならぬと云ふ風に唱へて居る。それから又人間に對する教育の態度は、藝術的、美術的であつて、何も細かい方

法や技巧とするのではない、一のイスビレーションによつて、美的態度を生じ渾然として統一した働を以てするのであるといふ處の、美的教育と云ふものもつまりは一種の具體的教育であり、又情緒的教育である。斯くの如く教育と云ふことに就いては、最近いろ／＼な方面から細い研究が出来て居るが、殊に吾々の幼児教育にとつて、其の關係の深いことを見るのである。元來、幼稚園の教育は、一般教育學と少しも關係が無いといつた風であつて、小學校以上の教育にとつては、其時代に適切な學說等があつたが、幼稚園教育に取りましては適切な學說もなく、誠に心細い有様であつた。所が近來になつて、教育の傾向が觀念的、抽象的と云ふ方面から段々實際的、具體的となつて來て、幼稚園の教育に至極近いものになつて來た。のみならず幼稚園教育に於ては、其の學說の傾向が實に其の日常實際の仕事にピッタリ合ふことが出来る。而して或る一方から見ると、近頃

の學說と云ふものは幼児教育の爲に出來て居るやうにさへ見へるのである。

處で若も斯う云ふことが、幼児教育の特色であるとしたならば、吾々は幼児教育の實際に於ても研究に於ても、此の特色を破ることなく、之れに及ばざるなきと共に、超脱する様心しなければならぬと信するのである。處で若しも吾々が幼児の自發性を尊重せず、自發性の内容如何に顯著なく、自分の理想のみを以て幼児に對して行つてよいといふことならば、或は又幼児の相互的生活を以て適當に誘導して行くことをせず、自分の直接の指圖干渉で、幼児を保育してよいと云ふことであるならば、或は又幼児に一方面の生活をのみ發達せしめて、渾然たる統一的發達をさせんでもよいと云ふのならば、或は又單に觀念的、概念的の教育をして、其情緒全體に就て教育しないでもよいと云ふことであるならば、却つて保育の仕事に手掛も出來ようし、又其仕事に就て何とか成功す



ることも比較的容易かも知れないが、併し幼児教育と云ふものはそんな、容易なことではない。何の教育でも然うであるが、特に幼児教育は、前述べた處の特色を以て居るものであるから、甚だ六かしいことになる。いはゞ幼児教育者は、教育上の細かい技巧でなくして、此の教育の根本的理解と資格とからでなくては出来ないものである。

## 幼稚園と自然

自然を顧慮せられぬ幼稚園は到底失敗に終ることを免れませぬ。幼児の精神生活は自然であります。其自然の精神生活が外界の天然にまた深い關係を持つて居るのです。

林の中に小鳥が自由自在に樂しげに囀つて居る如く、幼児の精神生活は自由でそして自然であり

以上、別に新らしいことでもなく、誠に平凡なことであるが、私としては多少考へて居る點もあつて申し上げました次第である。此の簡單なお話も、諸君のお考へによつて、少しでも意味あるものにお聞きなし下さつたならば、此上もない幸である。

ドクトル 三・田 谷 啓

ます。不自然は幼児の精神生活を破るのです。幼児は砂を以て樂しく遊びます。花を持つて嬉ばしげに遊びます。これが幼児の自然である。そして大切な仕事なのであります。遊戯は無意味に戯れるのでなく、幼児の爲めには大切な仕事なのであります。